

鈴鹿市地域公共交通計画の評価等結果について

本市では令和4年6月に鈴鹿市地域公共交通計画を策定しました。鉄道事業者やバス事業者、タクシー事業者が連携して公共交通ネットワークの確保・維持、利用促進に取り組むとともに、行政・市民・交通事業者・企業・地域団体などがそれぞれの役割を担い、計画の中で設定した目標の実現を目指しています。

計画に関連する事業の進捗状況・成果については、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第七条の2の規定に基づき、年に1度、協議会で議論し、自己評価を行うよう努めることとなっています。

令和7年度鈴鹿市地域公共交通計画の評価等結果は、計画に位置付けた施策の実施を踏まえて、評価指標の目標値に対する達成状況の分析、評価及び次年度に向けた課題や取組をまとめたものです。各目標値は未達成のものがあるものの、公共交通機関の利用者数は増加傾向であることから、現時点で地域公共交通計画の変更は行わず、次年度に向けて課題を整理し、取組を継続して行うこととします。議決後は、計画の評価等結果を国土交通省に提出します。

鈴鹿市地域公共交通計画の概要

地域公共交通の将来像

行政・事業者・地域のみんなで利便性の高い地域公共交通を
「使い」、「つくり」、「守り育てる」

計画期間

令和４年度～令和９年度

基本方針

- 基本方針 1 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に向けた維持・改善
- 基本方針 2 多様な移動ニーズに対応した地域公共交通の確保
- 基本方針 3 行政、交通事業者、地域の連携により地域公共交通を守り育てる

成果目標

公共交通利用者数の回復

(単位：人)

目標値 (令和元年度水準)		達成状況(上段:利用者 下段:目標値に対する達成率)			
		R4	R5	R6	R7
路線バス	1,288,000	1,045,000	1,085,900	1,189,000	1,238,200
		81%	84%	92%	96%
C-BUS	232,000	188,356	191,544	195,849	201,859
		81%	83%	84%	87%
鉄道	2,600,000	2,314,547	2,386,253	2,416,623	2,521,657
		89%	92%	93%	97%

目標①

路線バス利用者数を回復する

達成状況

達成率 96%

評価

予想を上回る利用者の回復

予想 新型コロナの影響等により、利用者数の戻りは鈍いと思込んでいた

現状 令和7年度末時点で9割を超える回復を達成

F1日本グランプリの影響

令和7年度は年度内に2回開催され、利用者数の増加に一定の影響を与えたと考えられる

課題と取組

課題

- 燃料費・エネルギー価格の変動
- 維持管理費の上昇
- 運転手の確保

取組 来訪者の利用促進

- 地域住民だけでなく市外からの来訪者の利用を促進
- 交通事業者と連携して、利便性向上につながる取組を検討
- 情報発信等を実施

目標 ②

C-BUS利用者数を回復する

達成状況

達成率 87%

評価

バスロケーションシステムを導入
利用者の利便性が向上

鈴鹿市ミジュマルバス（C-BUS）を運行

県内外から鈴鹿市にお越しいただくきっかけづくりや、
市民のC-BUSの利用などを通じた地域活性化に貢献

課題と取組

課題

利用者数は回復傾向だが、
運行維持に必要な市の財政負担額が増加傾向
→さらなる利用者の獲得、収支率の増加が求められる

取組

- 市内の移動実態等を分析し、
効率的で持続可能なC-BUSのあり方を検討
- 小学生へのモビリティマネジメントとして
「バスの乗り方教室」を実施
- 乗換案内等検索サービスへの対応拡大
- 交通事業者と連携して、利用を促すための情報発信等を実施

目標 ③

鉄道利用者数を回復する

達成状況

達成率 97%

評価

予想を上回る利用者の回復

予想

新型コロナの影響等により、利用者数の戻りは鈍いと思込んでいた

現状

令和7年度末時点で9割を超える回復を達成

F1日本グランプリの影響

令和7年度は年度内に2回開催され、利用者数の増加に一定の影響を与えたと考えられる

課題と取組

課題

安全運行に必要な車両更新や維持管理経費の確保が困難
→ 収入の増加が求められている

取組

来訪者の利用促進

- 地域住民だけでなく市外からの来訪者の利用を促進
- 各種イベント・キャンペーンの実施
- 待合環境の改善
- 乗継利便の向上を図る取組を実施

基本方針 2

目標 ④

多様な移動ニーズに対応した地域公共交通の確保 地域における主体的な取組を支援する

成果目標

4 地域

達成状況

達成 5 地域

一ノ宮地区・久間田地区・石薬師地区（鈴鹿市デマンド型交通実証運行事業）
稲生地区・長太地区

評価

令和 6 年度にデマンド型交通実証運行を実施した地域について
関係機関やまちづくり協議会との意見交換・協議を実施し、
実績検証と課題抽出を行った

課題と取組

課題

市内の公共交通空白地域等において、移動に課題がある地域が存在
□ 移動手段の確保が求められている
□ 地域との連携を深めていく

取組

手引書の活用促進

□ 「地域の実情に応じた移動手段確保のための手引書」の活用促進
□ 地域へのヒアリング・説明等を実施

取組体制・支援体制の構築

□ 庁内関係部局と連携して、支援体制を整備

基本方針 3 行政、交通事業者、地域の連携により地域公共交通を守り育てる

目標 ⑤ 利用促進の取組を増やす

成果目標

年間 6 回

達成状況

達成

バスの乗り方教室（深伊沢小学校・合川小学校）
廃止代替バス「亀山みずほ台線」沿線地域への利用促進チラシの配布
鈴鹿市ミジュマルバス（C-BUS）運行開始に伴うお披露目式
バスの日啓発事業 など

評価

地域公共交通に関する情報発信、出前講座やイベントを実施

課題と取組

課題

市民の約65%が自家用車で移動している（令和4年度データ）
→地域公共交通の利用者を増加させるためには、
日常生活における移動に、地域公共交通を使うきっかけを
創出する取組が求められている

取組

交通事業者との連携強化

□ 交通事業者をはじめとする関係者と連携

実施予定の施策

□ 情報発信：地域公共交通の魅力を周知

□ 出前講座：利用促進のための講座開催

□ 各種イベント・キャンペーン等の実施

→日常的に公共交通を利用するライフスタイルの定着を図る